

1年間の主な行事日程

2023年	4月	5日	第59回入学式
		12日	前期授業開始 授業公開講座「簿記原理I・II」(全30回)
	5月	13日	オープンキャンパス(第1回)
	6月	3日	前期公開講座「自分の財産を守る!! -だまされないための消費者契約法-」
	7月	8日	前期公開講座「SDGs in English」
	8月	1日	前期試験・補講開始
		5日	オープンキャンパス(第2回)
		8日	夏季休業開始
		19日	オープンキャンパス(第3回)
	9月	19日	学園創立記念日
		25日	後期授業開始
		30日	オープンキャンパス(第4回)
	10月	15日	大学祭
		28日	函館大学研究成果発表シンポジウム「中世から幕末における貨幣流通からみる蝦夷地の経済」
	11月	18日	学校推薦型選抜
		25日	後期公開講座「政治学における人間像について考えるーリベラリズムからケアの倫理までー」
	12月	6日	本学主催業界研究会(函館)
		13日	本学主催業界研究会(函館)
		25日	冬季休業開始
2024年	1月	11日	後期授業再開
		31日	後期試験・補講開始
	2月	3日	一般選抜<A日程>、社会人選抜・シニア選抜、編入学者選抜
		26日	春季休業開始
	3月	2日	一般選抜<B日程>
		16日	第56回卒業式
23日		オープンキャンパス(第5回)	
	27日	新2・3・4年次オリエンテーション	



函館大学 図書館

〒042-0955 函館市高丘町51番1号 TEL(0138)57-1181
URL https://www-std01.ufinity.jp/hakodate_u/



ぽるとさびえバックナンバー 函館大学 学術情報リポジトリ・函館大学広報誌
URL <https://hakodate-u.repo.nii.ac.jp/>

ぽるとさびえ

2023.August Vol.36

函館大学広報誌 Vol.36 発行/函館大学図書館



PORT SAPIÉ

ぽるとさびえ

HAKODATE UNIVERSITY
CAMPUS PRESS

特集 特集1 函館大学の英語教育

特集2 ピア・サポートセンターの役割
学生へのサポート&ケア

.....
キャンパスレポート・クラブトピックスなど



時代による大きな波にのまれず、 その波の力を利用して大いなる飛躍を

学 長
野 又 淳 司



新型コロナの規制も緩やかになり、函館にもたくさんの観光客が戻ってきました。台湾との定期便も再開し、クルーズ船もほぼ毎週のように寄港しています。かつて函館が北海道の玄関口として栄えた港町であったころに活躍した青函連絡船「摩周丸」のすぐ横、若松ふ頭にクルーズ船が停泊すると、私が子供のころに大きく感じていた摩周丸はとても小さく、時の流れを感じます。

さらに昔にさかのぼれば、北前船によって蝦夷地の物資が輸送されていたものが、今ではコンテナ船になっています。広報誌の名前にある「ほると」は港を意味しますが、港に求められる機能は大きく変わってきています。では、「さびえ」が意味する「知恵」は、どのように変わっていくのでしょうか。

人類すなわちホモ・サピエンスは、ラテン語で「知恵ある人」を意味します。よって、人間ができることそれ自体が知恵であるわけです。とりわけ、言語を読み書きする能力を持つ存在は、地球上では人間だけでしたが、昨今はChatGPTなど「生成系AI」が登場し話題となっています。言葉による人間の指示を理解しているかのように、文章、イラスト、プログラムコードなどを生成するAIの登場は、コンピュータが人間のように言語を操る未来を予感させます。

コンピュータが知能を持つかどうかの古典的な判定方法について、第二次世界大戦時に暗号解読などで活躍した数学者アラン・チューリングは「対話してみて人間と機械の区別がつかなければ、その機械には知能がある」と定義しました。

20世紀後半になると、多重知能理論を提唱するハワード・ガードナーは、言語に限らず、身体運動感覚や人間関係なども知能であると定義します。日本ではEQで有名なダニエル・ゴールマンは、自己や他者の感情を知覚

し、また、自分の感情をコントロールする知能について論じました。

21世紀に入り、ユヴァル・ノア・ハラリは、人類の虚構を信じる力に注目します。宗教や国家を信じることで大規模な協力行動が可能になり、文明構築に繋がったと論じています。

言語を用いて人類が何をしてきたのか。相手の感情に配慮し、人間関係を構築し、家庭、会社、地域社会、国家を形成してきたのです。今後は、人類全体としてのコミュニケーション能力は生成系AIの支援を受けて大きく向上し、グローバル化や多文化共生がさらに進展すると思われます。

外国語を例に取れば、現時点でも機械翻訳の精度はかなり高くなっています。音声認識や音声読み上げも実用レベルと言えます。生成系AIに指示すればまとまった文章も書いてくれます。

それでも外国語を学ぶ意義は十分にあります。第二言語を学ぶことで母国語を含む言語力が向上し、異文化への理解も進みます。海外旅行なら「通じればいい」ですが、ビジネスでは信頼関係を築く必要があります。外国語学習はビジネスの幅を広げ、人生の選択肢も広げてくれます。遠い将来には人間の仕事が機械に置き換えられるかもしれませんが、実際には、機械によって人間のできるものが増強され、学ぶ人と学ばない人の差が大きく開いていくことになるでしょう。

函館大学の学生には、新しいテクノロジーがもたらす大きな波にのまれるのではなく、波の力を利用して大きく飛躍することを期待しています。商学の専門教育にとどまらず、一定水準の英語力を卒業までに身につけ、プロジェクト活動やピア・サポート活動を通して、仲間同士で協力し支え合う大切さも学んでほしいと思います。

CONTENTS

●学長メッセージ(学長 野又 淳司).....	1	●KANDAI ing CLUB TOPICS	
●特集1 函館大学の英語教育.....	3	硬式野球部.....	11
●特集2 ピア・サポートセンターの役割		軟式野球部.....	12
学生へのサポート&ケア.....	7	●がんばる社会人一年生.....	13
●CAMPUS REPORT		●2023函館大学教養講座・授業公開講座.....	13
学生会ウォッチング.....	9	●授業アラカルト	
オープンキャンパス.....	10	「簿記原理」 東川 和将 専任講師.....	14



ネイティブのアドバイスで 日本と海外を比較

英語によって
自分自身をどのように
向上させていけるのかを考え、
身につけてほしい

トーマス ジョン 専任講師

英語担当科目: 英語スピーキングI~IV 英語実践演習III・IV
英語スピーキング入門a・b 英語実践入門Ic



自分の個性を出した 英語力を身につける

ステップアップするため、
考えることを放棄せず、
難しいことに
毎日チャレンジしてほしい

阿部 ジョスリン 専任講師

英語担当科目: 英語ライティングI・II 英語リスニングI
グローバル・カルチャー・スタディーズI・II メディア・イングリッシュ



【商学プラス実践的な 英語が学べる大学】

国内外のビジネスには、英語は必要な語学になっています。それは地域レベルであっても、お店などは売上向上やサービス向上のために、英語が求められているのです。誰もが完璧な英語スキルを持つ必要があるという意味ではありませんが、企業側は英語能力と意欲を備えた従業員を多く雇用したいと思っています。私は考えています。本学は商学の知識に加えて、カスタマーサービスのスピーキングとライティングのための実践的な英語が学べる大学であり、学生たちは英語、文化、ビジネスの知識を身につけることによって将来の仕事に役立てることができるでしょう。



【日本で長く暮らす ネイティブによる英語教育】

ネイティブの英語講師による英語教育は、クリアな発音やコミュニケーションスタイルのアドバイスなどが、学生たちにとっての利点であると考えます。しかしそれ以上に、日本で長く暮らしているネイティブの英語講師は、外国と日本の言語や文化をよく比較でき、職場や買い物などでの日常のコミュニケーションについてシェアすることで、学生は改善のために何が必要かを感じることができるのだと思います。これは、学生たちが海外留学や海外旅行について考えることにも役立つはずで、学生たちには自分がどのようなコミュニケーションスタイルを持っているのか、様々な人たちとどのようにして上手く接することができるのか、英語によって自分自身をどのように向上させていけるのかを考え、身につけてほしいと願っています。



な人たちとどのようにして上手く接することができるのか、英語によって自分自身をどのように向上させていけるのかを考え、身につけてほしいと願っています。

【日本のスタイルに合わせた 授業を展開】

私が担当している英語スピーキングI~IVの授業では日常会話を教えますが、特に状況や特定の言語のテーマとスキルに焦点を当てています。その中で学生たちは、実践的なコミュニケーションスタイルを学んでいます。また、英語実践演習の科目はTOEICの600点から700点取得を目指し、そのコツを学びます。日本の教育と西洋の教育には大きな違いがあり、そのため、私たちネイティブの英語講師は、英語教育を日本の文化やコミュニケーションスタイルに合わせて調整することを心がけています。さらに、授業の振り返りを行い、自分自身の指導の良い部分と悪い部分を認識することによって、学生たちが実践的に学び、気分良く授業が受けられるように取り組んでいます。



【各科目はそれぞれ 明確な目的を持っている】

私は授業以外でも、学生たちがTOEIC試験の練習やミニ講義にアクセスできるように、オンライン学習プログラムの作成を行いました。函館市内の社会人が自由にアクセスできるプログラムも作成したいと考えています。本学の英語教育プログラムは、各科目に明確な目的があり、そのデザインも非常に良く作成されています。学生がそれぞれの目標に向かっていける環境が整っていますので、本学で思う存分、英語力を養ってください。



【英語学習で コミュニケーションも向上】

商学部で学んでいる学生たちの未来の選択肢は、限りなく広がっています。私たちの仕事は、学生たちがどのような仕事にも就けるように力を付けさせてあげることです。英語は日本人にとって、難しい勉強かもしれませんが、難しいことにトライを続けることで、頭が働くようになります。さらに、知識が深くなっていくに従って、学ぶことが楽しくなってくるはずで、英語を勉強すると、日本語が上手くなるという相乗効果も生まれますし、コミュニケーションも向上します。学生たちには、英語学習とは単に語学を学ぶだけではないことを分かってもらいたいと思っています。



【スピードダウンで 分かりやすい授業を】

近年の学生たちは、中学や高校でもネイティブの先生による授業を受けてきたケースも多いと思います。それでも、ナチュラルな発音で話していると、最初の頃はしっかりと聞き取れていないという学生も多いことでしょう。そこで、私が話す時の英語は、少しスピードダウンさせるように心がけています。ですから、私の英語が聞き取れなければ、次のステップへは進めません。ここで大切なことは、「分からないから諦める」と思わず、「もう一度、今度は少しゆっくりお願いします」と声を出して伝えることです。これは、決して恥ずかしいことではありません。その発言をする時には勇気が必要だと思いますが、分からないことを分からないままにしていれば、その先の成長はありません。



【自分の個性を出す ライティングを習得】

英語ライティングの授業は、1年間を通して同じ学生たちが受けることになります。ライティングとは「文章を書く」ことですから、書いた文章を見直した時に、どこが良くて、どこが足りないのか、その時の学生たちの力がそのまま表れます。このライティングは、答えはひとつではありません。大切になってくることは、自分の思いを相手にしっかりと伝えられるかどうかということです。そこで学生たちには、「自分のスタイルや個性も出していきましょう」という思いを伝えるようにしています。授業を続けていく中で、学生たちの成長を身近で感じられることが、私にとっての喜びにもなっています。



【チャレンジを続けて 豊かな人生を】

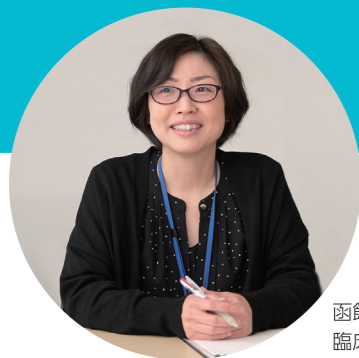
講師の立場でも学生の立場でも、「何を教えたいか」、「何を聞きたいか」、そのシンキング・プロセスはとても大切なことです。英語に限らず、何事においても「考えること」を大切にしていかなければ、次のステップへは行きづらくなってしまいます。アイデアを広げることは簡単なことではありませんが、皆さんにはステップアップするために、考えることを放棄せず、難しいことに毎日チャレンジしてほしいと願っています。チャレンジを続けていけば、きっと自分の人生が豊かになっていくはずで、「英語」を通して、私も皆さんの将来のためのサポートをしています。



ピア・サポートセンターの役割 学生へのサポート&ケア



小・中・高の学校のみならず、現在では多くの大学でも取り組まれているピア・サポート。本学では2010年度にピア・サポートセンターを学内に設置し、学生同士が支え合い・助け合う活動を行っています。この取り組みについて紹介していきましょう。



函館大学ピア・サポートセンター
臨床心理士・公認心理師
本田 泰代さん

「学生の居場所」であり、 「学生相談室」でもある ピア・サポートセンター

『ピア(peer)』という言葉は「仲間」という意味で、『ピア・サポート(Peer Support)』とは仲間同士の支え合い・助け合いを行う活動です。本学におけるピア・サポートの取り組みは2010年度から始まっています。もともと、ピア・サポート活動は1970年代にカナダで始まったとされています。2000年頃から日本での研究・実践も積み重ねられ、小・中・高校を中心とした学校現場においても普及していききました。ここ数年では、全国の多くの大学でピア・サポートに関する様々な取り組みが実践されるようになってきています。本学のピア・サポートセンター(通称『ピアサポ』)は、学生が自由に利用できるフリースペースとして開室しています。学内の「居場所」の1つとして、昼休みや空き時間に利用している学生が多いです。友達と一緒に休憩・食事をしたり、課題や試験勉強をしたり、就職活動の情報交換をしたりなど、学生同士の交流の場として広く活用されています。その一方で、一人で集中して勉強に取り組んだり、自分の好きなこと(スマホで音楽を聴いたり、ゲームをしたり)を楽しんでいる学生もいるなど、利用の仕方は様々です。

私は『ピアサポ』に週3日勤務し、センターの運営や『函館大学ピア・サポーター(以下、ピア・サポーター)』を養成するための研修実施などの業務にあたっています。また、臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーとして勤務していますので、大学生活での学修・人間関係・心身の健康などの悩みや不安を抱える学生への個別のカウンセリングや、障がいのある学生への支援等にも携わっています。本学における『ピアサポ』は、カウンセラーが配置された“居場所”としての機能と、心理的な援助を提供する“学生相談室”の機能を併せ持つ場所となっています。

学生が学生をサポートする ピア・サポーター認定制度

本学では、学内で定めた認定要件に基づき、ピア・サポートに関する知識や技術を学んだ学生をピア・サポーターに認定する制度を設けており、2023年6月には新たに3年生7名が認定を受けました。ここ数年はコロナ禍の影響で積極的に交流を図るような活動が滞っていた部分もありますが、ピア・サポーターに認定された学生には教職員の指導の下で、随時、新入生へのサポートや地域の



「函館大学ピア・サポーター養成&スキルアップ研修会」の「はじめての手話」

同研修会の「性の多様性について」

高校生との交流などに協力してもらっています。ピア・サポーター養成のための研修は、主に私が担当する「教育相談」という教職科目の一部として実施しています。自己理解・他者理解、傾聴やコミュニケーションスキルなど、対人援助に必要な知識や技術を講義・演習を通じて学んでいきます。加えて昨年度は、外部講師を招いて「はじめての手話」「性の多様性について」「ゲートキーパー養成研修(自殺予防)」に関する研修会も実施しました。



ピア・サポーター認定証交付式

必要な時に援助を求められる 雰囲気のある環境をつくる

まずは、ピア・サポーターに限らず、『相手も自分も尊重し支え合う』というピア・サポートの理念・精神を多くの学生に知ってもらい、一人ひとりが自分にできる身近なピア・サポートを実践していただ

きます。日常生活・大学生活のあらゆる場面でピア・サポート活動の場になると思います。そして、ピア・サポーターになった学生には、学内にピア・サポートの文化や風土を根付かせる中心的な役割を担っていくとともに、他者を思いやる豊かな人間性を育て、社会人となってからも必要なコミュニケーション能力をさらに伸ばして欲しいと期待しています。

カウンセラーとしての相談業務の中では、学生から様々な相談が寄せられます。これらに対して教職員と連携しながら対応することが多い一方で、学生同士の関わりによって励まされ、支えられる学生の姿もあり、大学生にとって『仲間』の存在が非常に重要であると感じる機会にも多く出合います。もちろん全ての問題を学生同士で解決していくことは困難であり、対応を間違えると問題の深刻化や、時には危険も伴うと思います。だからこそ、困った時に誰に相談すればいいか、どこに行けばいいのかをより多くの学生に知ってもらい、必要な時には援助を求めることが当たり前に行えるような雰囲気が大学全体に広がってほしいと考えています。

ピア・サポーターによる
高校での実践・交流



テスト対策相談コーナーの様子

●ピア・サポーターに認定された学生たち●



蛸子 翼さん
商学部商学科英語国際コース3年
(函館大学付属有斗高等学校出身)

相手が何を相談したいか 感じ取れるピア・サポーターに

私は教員になることを目標として、今、函館大学で学んでいます。教員は、生徒から相談を受けた時に、的確な対応をしなければいけません。今のうちに、どのような対応をしていくかの経験を積みたいと思い、ピア・サポーターの申請をして、今年6月に認定を受けました。私自身、大学入学時に履修登録の仕組みがよく分からず、不安がありました。そこで、特に新入生の活動をサポートできる取り組みをしていきたいと思っています。「人に相談をする」ということに慣れていない人も多いと思います。でも、相談することは恥ずかしいことではありません。ためらっている人が一歩を踏み出せるように、信頼されるピア・サポーターを目指していきたいです。



米田 葉月さん
商学部商学科企業経営コース3年
(函館大妻高等学校出身)

相手に寄り添う気持ちを大切に、 学生の目線でアドバイスを

ピア・サポーターは自分たちの仲間を支えることが大きな役目であると感じて、蛸子さんと同じく今年6月に認定を受けました。函館大学のことをまだよく分からないであろう1年生はもちろんですが、いろいろな学年の人と関わりたいと思っています。例えば就職関係の話やテストのことなど、日常の大学生活に関する相談にも対応していきたいと考えています。また、高校生を対象とした相談会など、学外での活動も行っていたいです。学生同士だから話せることもあると思います。ピア・サポーターとして、相談してくれた人に寄り添う気持ちを大切に、「思っても言いづらい」ことまで引き出してあげられるような、そんな関わりを持って活動していきたいと思っています。

学友会ウォッチング

学生生活を楽しむイベントを作り出す 学生による学生のための団体

学友会は、主に学生たちに関わる活動を行っている学生団体です。函館大学の学友会は、どんなことを行っているのでしょうか？「本学の学友会は学生が主体となり、イベントなどの企画・運営を行っています」と答えてくれたのは、学友会のメンバーのひとり、イベント担当の鈴木さんです。続けて、「イベントは、私たち学友会が主催するものもあれば、学生から『こんなイベントをやりたい』という要望があった時に、その学生たちをサポートするケースもあります」と教えてくれた澤田さんは、総務として活動を支援しています。



鈴木 愛羅さん
商学部商学科市場創造コース2年
(北海道函館商業高等学校出身)



澤田 茜さん
商学部商学科市場創造コース2年
(函館白百合学園高等学校出身)



大学祭

学友会入会式&オリエンテーション

昨年は新イベントも続々開催

函館大学の学友会は、学内のクラブ・サークルの統括に加え、例年、新入生歓迎イベントや大学祭などを企画・運営していますが、昨年は新しいイベントの企画にもチャレンジしました。そのひとつが7月7日に開催した『夏祭り・七夕イベント』です。「夏祭りでは食べ物の屋台を用意して、学生たちに無料で提供しました。皆さん楽しそうに屋台を回ってくれて、また企画したいという思いが強くなりました」と充実感を漂わせていた鈴木さんは、七夕についても、「学友会がお菓子をを用意し、地域の方々と一緒になって、本学の玄関前で子どもたちにお菓子を渡したのですが、皆さん喜んでくれて嬉しかったです」と、開催準備の苦労も、子どもたちの笑顔を見て吹き飛んだそうです。また、昨年秋に開催した、同じく新企画の『ハロウィンイベント』や『ゲーム大会』も大好評でした。「ハロウィンイベントでは、仮装をし

てきた学生に学食または喫茶の食券をプレゼントしました。皆さん個性的な仮装をしてきていました」と、鈴木さんはその手応えを言葉にしてくれました。

次へとつなぐメンバーの思い

同じ大学で学ぶ後輩や先輩、仲間たちに、充実したキャンパスライフを送ってもらうため、さまざまな活動を行う学友会のメンバーたち。どんな思いで活動に取り組んでいるのでしょうか。初めて携わった企画が今年春の新入生歓迎イベントだった澤田さんは、「昨年は自分が参加する立場で、とても楽しかったです。自分が抱いたその思いを、新入生たちにも感じてもらいたいと思って企画を進めました。結果、皆さん楽しんでくれたようだったので、やりがいを感じました」。一方の鈴木さんは、「夏祭りを任せられ、トクバタしながらやっていたのですが、そんな経験も自分にとって

は大きな財産になりました。経験したことを後輩たちに教えてあげられることは、とても良いことだと思います」と話します。

将来に活かせる学友会での経験

学友会での活動経験は、社会人となった時に、きっと生きてくるはず。ふたりとも学友会に入り、「成長できたかな？」と感じる部分があるそうです。「私は市場創造コースで学んでいますが、新しいものを作り出すことは、学業にも活かされますし、その逆もあって、相乗効果がありました」と鈴木さん。最初は自分のことで精一杯だったと話す澤田さんは、「少しずつですが、全体を見る力がついたと思います」とのこと。最後は声を揃えて、「今年は学

友会に1年生が8人入りました。人が増えたからこそできることもあると思うので、来年の新入生もどんどん学友会に入ってほしいです」と締めくくりました。



夏祭り・七夕イベント



ハロウィンイベント

OPEN CAMPUS 2023

函館大学の魅力を詰め込んだ

オープンキャンパス

在学生がキャンパススタッフとして皆さんを案内していく本学のオープンキャンパス。2023年度は本学主催のオープンキャンパスを5回開催します。本学の概要や入試要項の説明、ミニ講義体験、キャンパスツアー、無料ランチ体験(希望者のみ)、保護者説明会などがあり、本学の情報と雰囲気を知ることができます。オープンキャンパスなどに都合がつかない方には、放課後入試相談会・Web個別相談も受け付けていますので、日時などの詳細は本学HPをご覧ください。か、本学入試課まで電話でお尋ねください。

01

大学の概要説明

参加者の皆さんに講堂に集まっただけ、本学の担当者から入試・学科・コース・宿舎・通学バス等の説明を行います。

02

キャンパスツアー

在学生のキャンパススタッフが本学内の各施設・設備の説明を行いながら、皆さんをご案内していきます。

03

ミニ講義体験

本学での4年間の学びをイメージできるよう、商学、英語、教職など、実際に行われている講義の短縮版を体験していただけます。

04

学生交流

リラックスしながら、在学生との交流タイムを設けています。気になることや疑問など、何でも気軽に聞くことができます。また、保護者説明会も同時開催しています。



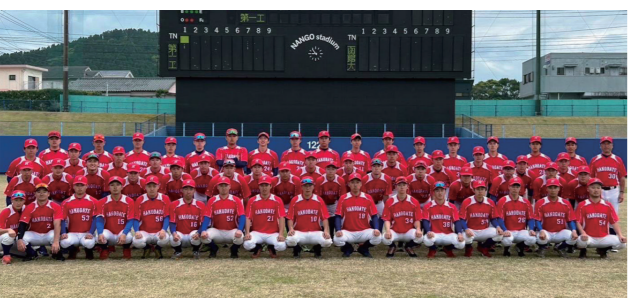
【2023年度オープンキャンパス日程】

2023年5月13日(土)・8月5日(土)・8月19日(土)・9月30日(土)
2024年3月23日(土) 各日12:45~16:00

※当日はJR函館駅西口・函館大学間で無料送迎バスもご利用いただけます。函館市、北斗市、七飯町以外から参加される方には交通費補助制度あり!

無料ランチ
(希望者のみ)
11:50~12:30





CLUB TOPICS

KAND

学内外に函大の元気を
発信します!

A I ing

好きなことに全力で取り組む中で
自分を成長させてくれる環境があるクラブ活動
部員たちは皆、目標に向かい、
情熱を持って打ち込んでいます



齊藤 椋平さん
商学部商学科企業経営コース4年
(秋田県立秋田中央高等学校出身)

小笠原 聖さん
商学部商学科企業経営コース4年
(千葉県立安房高等学校出身)

藤原 諒哉さん
商学部商学科企業経営コース4年
(東洋大学附属姫路高等学校出身)

硬式野球部 BASEBALL

大学野球の集大成として 秋の大会に全力で臨む

北海道六大学野球のリーグ戦を勝ち抜き、全国大会出場を目標として練習に取り組む函大硬式野球部の部員たち。「練習でも試合でもメリハリをつけ、楽しみながらプレーしているのが函大硬式野球部です」と、チームのことを紹介してくれたのは、キャプテンを任されている小笠原さんです。続けて、副キャプテンの齊藤さんは、「やらされているのではなく、自分たちで考えて練習に取り組んでいます。だからこそ気づきもあり、良くても悪くても試合の結果を素直に受け止められます」と、話してくれました。



「キャプテン、キャッチャーとして、人のフセや仕草など、観察力を普段から意識しています」と話す小笠原さん。

そして齊藤さんと同じく副キャプテンであり、ピッチャーリーダーとして函大のピッチャー陣をまとめる藤原さんの得意な球種はツーシーム。「直球で勝負ができないから、ツーシームで逃げている、と周りからネタにされています」と笑いますが、マウンドに立ったら、キャッチャーの小笠原さんを信じて、迷いなく投げ込むことを大切にしているそうです。一方、ポジションはレフトで、打撃では4番としてチームを引っ張る齊藤さんは、打撃でも守備でも、「思い切りの良いプレー」がアピールポイントです。そんな齊藤さんは、今年の春季リーグではベストナインに選出され、首位打者にもあと一歩だったのだとか。副キャプテンのふたりから、「特に下級生から信頼され、やりやすい雰囲気を作るのが上手い」と評された小笠原さんは、「齊藤が話してくれたように、大学野球は自分で考えて取り組まなければ成長できません。自分をもっと成長させたいと思っている人は、ぜひ函大硬式野球部に来てください」と、後輩たちの入部を歓迎しています。皆さん、野球は大学までと考えているようで、「秋のリーグ戦は優勝を勝ち取り、自分たちの大学野球の集大成にしたい」と声を揃える3人。彼らが全国大会出場を勝ち取ることを期待しましょう。



函館大学硬式野球部HP
<https://kandai-bbc.jimdofree.com>



「試合で自然と体が動くように、練習の時はよく考えて取り組んでいます」と話す齊藤さん。

「公式試合、練習試合、紅白戦のいずれも一球一球、集中することを大切にしています」と話す藤原さん。

軟式庭球部 SOFT TENNIS

自主練で磨きをかけて チーム一丸で優勝を目指す

函大軟式庭球部で活動し、今年4年生になった浜山さんと千田さん。「1年生の時に入部してから、大会ではずっと団体優勝を目標にして頑張っています」と話すキャプテンの浜山さんは、最上級生になって「個人よりもチームとして1勝を」と、責任感が出てきたそうです。1年生の時から浜山さんと切磋琢磨してきた千田さんも思いは同じです。「私が1・2年生の頃は、先輩が引っ張ってくれる中でガムシヤラにプレーできました。今は、その伝統を引き継ぎ、後輩につないでいくことを大切にしています」と、千田さんは先輩として頼もしい一言。そんな先輩たちが引っ張る函大軟式庭球部は、自分が納得いくまで自主練を思い切りできる環境が整っています。「部員はいつでもコートが使えます。部活の時間が終わってから、自主練に励んでいる部員が多いのが特徴です」と浜山さん。そして千田さんは部員同士の関係について、「部員はみんな人柄が良く、優しく個性も豊か。みんなが自然と仲良くなっていきます。そこがこの部の一番良いところですよ」と教えてくれました。



「部活の時間と自主練の時では、考えを切り替えて取り組んでいます」と話す浜山さん。



千田 寛隆さん
商学部商学科企業経営コース4年
(旭川明成高等学校出身)

浜山 陽希さん
商学部商学科企業経営コース4年
(北海道科学大学高等学校出身)



「ミスをした時は一度立ち止まって原因を探し、答えを見つけるようにしています」と話す千田さん。

ここでふたりに、それぞれの印象を聞いてみました。「浜山くんは、すごく考えてプレーするタイプの人。私はそれが苦手なので、素直に凄いとします。また、やる気スイッチが入った時の気迫も凄まじいです」と千田さん。それを聞いた浜山さんは、「考えるのが苦手と言っているけれど、千田くんは感覚が凄いです。打つ手なし、と思う状況でも、打ち破っていく攻撃性があるプレーヤーです」と返しました。今年ふたりにとって、大学でのソフトテニス最後の年。「自分が納得のいく練習をして、大会では優勝を目指して頑張りたい」と、強い決意を語ってくれた千田さん。キャプテンの浜山さんは、「この秋は自分に集中して結果を残し、それが結果的にチームのためになればいいですね」と続きました。悔いの残らないプレーでチームに貢献してくれることでしょう。

本学を卒業して社会へと
新たな一步を踏み出した先輩たち。
夢や目標を持って、
新たなステージで躍動しています。

がんばる社会人一年生

積極的に 挑戦することを大切に

株式会社ロフト 勤務

小川 結愛 さん

商学部商学科企業経営コース卒
(市立函館高等学校出身)



私は株式会社ロフトに入社し、横浜店で販売員として働いています。元々雑貨が好きだったので、好きなものに囲まれて働くことができる環境に幸せを感じています。今はまだ、覚えなければいけないことが多くて苦勞もありますが、毎日成長できるよう努力しています。上司の方からは「やった後悔は小さくなる、やらない後悔は大きくなる」という言葉をいただき、何事にも積極的に挑戦することが大切であると学びました。自ら学ぶ姿勢を持ち続けることが、自己能力を伸ばす一番の方法だと思います。たくさんの方々と関わり、相手の良いところを吸収し、それを自分のものにできるように日々心掛けています。また、明確な目標を定めておくことで、やりがいや達成感を得ることができると思います。就職活動は大変なこともあると思いますが頑張ってください。応援しています！そして、自分の好きな自分でいられるように、無理のない生活を送ってください。

スタートダッシュを決める 社会人となるために

マンパワーグループ

株式会社 勤務

足沢 秋晴 さん

商学部商学科市場創造コース卒
(青森県立十和田西高等学校出身)



私は現在、マンパワーグループ株式会社盛岡支店の営業として働いています。函館大学を卒業して社会人となり、皆さんに一番伝えたいことは、キャリア開発課を活用するという事です。私はキャリア開発課の方々のおかげで、社会人の基礎であるマナーや身だしなみなどに苦勞することがなかったです。基礎が固まっていると、同期とのスタートラインが変わります。実際に私は2カ月弱の研修明け、2週間という短い期間で案件を獲得することができました。函館大学は人数が少ない分、教職員からの手厚いサポートが受けられるところが魅力だと思います。是非キャリア開発課を活用して社会人人生のスタートダッシュを決めましょう。皆さんの活躍を応援しています。

2023函館大学教養講座・授業公開講座

本学では地域社会との交流や教育の還元を図るため、さまざまな公開講座を行っています。教養講座として、今年度前期は「消費者契約法」や「英語で学ぶSDGs」をテーマに開講しました。後期は「リベラリズムからケアの倫理まで」をテーマに開講します。さらに、通年の公開講座として「簿記原理」(全30回)を提供しています。

公開講座

《前期》

第1回 6月3日(土) 10:00~12:00
「自分の財産を守る!!
—だまされないための消費者契約法—」
講師:永盛 恒男

第2回 7月8日(土) 10:00~12:00
「SDGs in English.」
講師:トーマス ジョン、阿部 ジョスリン

《後期》

11月25日(土) 10:00~12:00
「政治学における人間像について考える
—リベラリズムからケアの倫理まで—」
講師:鈴木 知花

授業公開講座

●「簿記原理 I・II」 4月12日(水)~2024年1月24日(水)
水曜9:00~10:30(全30回)
講師:片山 郁夫

函館大学研究成果発表シンポジウム

●「中世から幕末における貨幣流通からみる蝦夷地の経済」
10月28日(土) 13:30~16:30
パネラー:田中 浩司、中村 和之
司会:安木 新一郎
他、ゲストスピーカー

※参加ご希望の方は、TEL、FAX、Eメールのいずれかにより、お申し込みください。
申込先/函館大学・総務課 ■ TEL.(0138)57-1181 ■ FAX.(0138)57-0298
■ E-mail soumu@hakodate-u.ac.jp

授業アラカルト

『簿記原理』

東川 和将 専任講師

函館大学で行われているさまざまな講義や実習。
今回は「簿記原理」の講義をご紹介します。
どのようなことを学び、身につけられる講義であるのか、
見ていきましょう。



就職への武器となるだけでなく、 資産の効果的な運用にも役立つ知識

『簿記原理』は学部の必修科目であり、毎年多くの1年生が受講しています。本講義は毎年2月に行われる「日本商工会議所簿記検定3級」に合格することを目的に開講されています。「日商簿記検定」は知名度が高く、成果を把握しやすいことから、企業の採用担当者からのニーズが高い資格の1つと言われています。しかし、資格を取得すること以外にも、簿記を勉強することには意義があると考えています。そもそも簿記とは、企業が行う経済活動の成果を「貨幣額」にもとづいて測定・記録するための手段であり、記録された情報は「会計情報」として株主や債権者といった利害関係者に向けて公開されています。したがって、会計情報とは、企業の経済活動の成果を「お金」と紐づけて表現した情報であり、その情報システムを担う簿記の理解を深めれば、企業の価値を「お金」の側面から考えられるようになるでしょう。

「お金」に対する価値の判断は、誰にとっても同じ物差しによって行われます。100円玉1枚の価値は、子どもや大人、男性または女性といった個人の属性に関係なく、誰にとっても等しく100円の価値を持ちます。実生活のほとんどの場面において、私たちが持つ価値観は十人十色の様相を呈しますが、いざ「お金」を目の前にすると、私たちが持つ価値観は一つに共有されることになるのです。



このことは、株式投資で資産運用を行う際において重要な含意を持ちます。効果的な投資戦略を構築する上で重要なことは、「自分が投資対象の企業をどう判断するかではなく、自分以外の投資家はその企業をどのように判断しているのか」を考えることです。その上で、客観的な尺度に基づいて記録された会計情報が役に立つというわけです。

これからますます少子高齢化が進み、社会保障等の個人負担額が増加していくことが予想される中で、効果的に資産を運用していくことには一定の意義があると考えます。このとき、簿記の知識を動員することで、効果的な投資戦略を見つけられるはずです。毎回の講義の中では、論点をわかりやすく説明するだけでなく、簿記の知識が実生活の中でどのように役に立てられるのかということも伝えるように心がけています。

